

令和5年度だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業



避難所開設訓練 ダイジェスト



2023

大仙市教育委員会

《 だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業 》

大仙市教育委員会事務局 教育指導課

本事業でねらう3本の柱

- 「自分の命を自分で守る子ども」の育成
- 小・中学生によるだいせん絆プロジェクト
- 自主防災組織づくりから広げる地域力の向上

防災教育に関わる市内小・中学校の主な取組 【これまでの取組】

～ I・支援と交流 ～

- ①被災地支援
＜全小・中学校＞
・募金・米・文房具などの送付
- ②被災地訪問による交流
＜市内2中学校、1小学校(R4)＞
・プランター花のプレゼント
・メッセージポスターとメッセージ団扇のプレゼント
- ③中学生サミットによる支援
・ヘルメットや図書の寄贈、被災地訪問による交流と学習会
・交流活動の報告会

～ II・国や市の事業 ～

- ①H23 福島っ子との交流事業
市内5小学校、3地域
・冬祭りへの参加や音楽交流、郷土料理体験
- ②H23～H25復興教育支援事業
(文部科学省指定) <大曲中>
・創作花火の打ち上げや鉢花贈呈、若竹町内会との合同避難訓練
- ③避難所開設訓練
H25 平和中 H26 大曲西中 H27 西仙北中
H28 仙北中 H29 太田中 H30 大曲南中
R1 豊成中 R2 南外中 R3 協和中
R4 中仙中
- ④市総合防災訓練への参加
H23中仙地域 H24南外地域 H25協和地域
H27太田地域 H28大曲地域 H29県冬季防災訓練
R1西仙北地域 R2千畑地域 R3仙北地域

～ III・計画等の整備 ～

- ①「学校安全計画」「危機管理マニュアル」「防災教育年間指導計画」等の整備
・整備の実態把握と改善
- ②「大仙市版・避難所開設・運営マニュアル」の提供
・総合防災課との連携による作成
- ③各学校における緊急連絡体制の整備
・「だいせんこども安全安心メール」等による電子メール配信システム整備

【課題】

- ★地域の実態に即した避難所開設の在り方
- ★自主防災組織と連携した防災活動
- ★感染症拡大防止に配慮した避難所開設の在り方

【今後の方向性】令和5年度の計画

～ I・交流の継続と充実 ～

被災地との交流

<市内2中学校、1小学校>

- ・ 平和中・神岡小⇔大槌町（吉里吉里地区仮設住宅）
- ・ 太田中 ⇔大槌町（大槌学園）

～ II・国や市の事業 ～

①市総合防災訓練

②だいせん防災教育
「生き抜く力育成」事業

～ III・計画等の整備 ～

「危機管理マニュアル」等の見直しと改善

だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業 避難所開設訓練

実施予定日	令和5年10月12日（木）
実施場所	大仙市立大曲中学校 校舎
参加者	大曲中学校全校生徒、教職員及びPTA関係者 地域自主防災組織代表住民 消防署、自衛隊等の関係機関 等
主催	大仙市教育委員会事務局教育指導課及び総合防災課

～主な活動～

- ①生徒避難
- ②避難所開設
- ③地域住民避難
- ④避難所運営
- ⑤浄水訓練

- ・ 避難所開設訓練を含む総合的な防災訓練として、10の訓練・体験活動をダイナミックに展開する
- ・ モデル校の実践として、地震発生時の避難訓練、避難所開設に関わる初期対応の実際を体験させる
- ・ 地域住民との防災訓練及び体験を通して、自助から共助へと主体的に行動する力を身に付けさせる

事業による成果を生かす

「総合的な学力」を身に付け、「自分の命は自分で守る」児童生徒の育成に“つなげる”
大曲中学区の防災モデル実践の成果を大仙市内全域に“広げる”

小・中学生が主体的に社会参画する地域づくりへ

令和5年度「だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業」 避難所開設訓練及び地域合同防災訓練 実施要項

大仙市立大曲中学校

1 ねらい

- (1) 地震の性質やそれに伴う災害を考え、安全な行動がとれるよう、態度や習慣を育てる。
- (2) 災害時において、冷静かつ迅速に的確な行動がとれるようにする。
- (3) 地震の発生を想定し、地域住民と中学生・防災関係者が一体となって避難訓練及び実践的な応急対策活動等の訓練を実施することにより、総合的な防災体制の確立及び意識の高揚を図る。

2 実施日時 令和5年10月12日(木) 9:10~11:50

3 場 所 大曲中学校 前庭及び体育館、柔剣道場

4 参加者 大曲中学校全校生徒、大曲中学校教職員、若竹町住民、PTA関係者、大仙市総合防災課職員、大仙市教育委員会事務局指導課職員、大曲消防署、自衛隊秋田地方協力本部

5 想定内容

令和5年10月12日(木)午前9時10分頃、緊急地震速報が発表され、秋田沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生し、大曲地域でも震度6強から7の強い揺れが70秒ほど続いた。大曲地域では多くの建物の倒壊、電力、通信、水道施設に大きな被害が出て、火災も発生した。倒壊を免れた大曲中学校に通常の生活が営めない状況となった地域住民が避難することができるよう、大仙市災害対策本部（総合防災課内）からの避難所開設要請を受け、校長が、避難所開設の指示を出した。大曲中学校では1校時の授業中、開始およそ20分が経過した時に地震が起り、その後1年棟1階トイレ隣の機械室及び自転車置き場付近の家屋から火災が発生した。生徒は緊急避難命令を受け第1アリーナに避難した後、安全確保のため学校にとどまり避難所の開設に協力することとした。

6 評価の観点と生徒に身に付けさせたい力

- (1) 避難所開設・運営に必要な役割や協力・支援の方法を身に付けようとしている。(地域を知り災害に備える力)
- (2) 他と協力しながら主体的に活動し、災害時にたくましく生き抜く力を身に付けようとしている。
(発災時に生き抜く力)
- (3) これまでの避難所開設に伴う活動を通して、地域の一員としての役割を自覚し、主体的に開設・運営に参画している。
(社会に参画する力)

7 活動の様子

【訓練1】地震発生時のシェイクアウト訓練及び避難訓練 対象：全校生徒・職員



【訓練2】煙道避難体験 対象：1年生

・地震発生後に火災が発生したことを想定し、煙道（煙体験ハウス）を通して避難する。



【訓練3】高所救助訓練見学 対象：1年生
・災害時、高所に取り残された人を救助する様子を見学する。



【訓練4】初期消火活動 対象：1年生
・火災発生後の初期消火活動として水消火器による消火活動を行う。



【訓練5】大仙市総合防災課職員による講義 対象：2年生
・地域防災について理解を深め災害時の適切な行動について考える。



【訓練6】地震体験 対象：2年生
・地震体験車に乗り、強い揺れを体験する。



【訓練8】心肺蘇生（CPR）とAED 対象：3年生

・一次救命処置の仕方について理解し、とっさの場合においても処置ができるようにする。



【訓練9】災害緊急処置 対象：3年生

・災害時の対応等について理解し、適切な行動をとることができるようにする。



【訓練10】飲用・生活用水の確保 対象：3年生

・プールの水を浄化し、飲用・生活用水にする仕方について理解し、避難所で活用する。



*各活動ローテーションの間、または終了した学級は自衛隊車両の見学をする。



【訓練7】 避難所開設

対象：3年生（避難民：若竹町民・PTA校外指導部）

・「訓練1」に引き続き、校長の避難所開設の指示を受け避難所を開設する。



【総務（左）：災害状況等の把握、避難所内のルール作成など：トランシーバーで各所と連絡】

【環境整備（中）：必要物資の運搬、簡易テント等設置：段ボールベッドの作成】

【受付・誘導（右）：避難者の受付、名簿作成、誘導：GIGA タブレットを使って避難者を受入】



【情報・広報（左）：案内表示、掲示板での情報伝達、写真記録：総務と連絡を取りながら情報伝達】

【救護（中）：救護所の設置、アレルギー、健康チェック：負傷者への聞き取りと応急処置】

【衛生管理（右）：ゴミ箱制作・設置、簡易トイレの設置：トイレの設置場所を検討】



【ボランティア（左）：健康状態の聞き取りなどの住民対応：簡易テントを訪問】

【保健衛生（中）：避難所の消毒、感染対策：別室で発熱者に対応】

【避難所開設訓練終了集会（右）：大仙市避難所担当への避難者名簿の引き継ぎ】

8 成果と課題

今年度はコロナ禍以来の若竹町内会の参加もあり、行政や消防、自衛隊そして地域が共同し、総合的な防災訓練を全校生徒で実施することができた。特に避難所開設訓練においては、事前に「より被災者に寄り添った避難所とするために、主体的に開設・運営していく上で自分たちにできることは何か」を考える場を設定し、訓練を実施した。生徒は自分の役割の中で、避難者の不安を解消するための表示や伝達方法を工夫したり、笑顔を心掛けたりしながら活動に取り組んだ。生徒の振り返りでは「地域の人に話しかけるのに緊張した」「車椅子の人などもいて誘導が難しかった」などという訓練時の難しさの感想とともに「実際にはどのくらいの人がかかるのか分からないので、平常時から意識したい」など、避難所開設を含めた防災意識の高まりが感じられるものがあった。今回の経験を生かして、非常時においても、地域の一員として自ら考え、行動する力を発揮してくれることを期待する。

守りと攻めの防災教育 平和中 12年目の取組

「守り」の防災 ～避難所開設訓練～

- 期 日 令和5年7月13日(木)
- 対 象 平和中学校生徒・教職員・地域住民
- 想定内容

令和5年7月13日(木)12時30分頃、西仙北地域を震源とする直下型の強い地震が発生し、大仙市地域で震度6を記録した。神岡地域の家屋150世帯が全壊または半壊し、各避難所に市民が集まった。倒壊を免れた平和中学校にも避難者が集まり、避難所を開設することとなった。平和中学校では、昼休みの時間に地震が起こった。そのため、生徒の身の安全確保のために平和中学校にとどまり、避難所の開設・運営に協力する運びとなった。

□活動の様子



【全校生徒のグラウンドへの避難】



【ケガをした生徒の搬送】



【パーティション設置その1】



【パーティション設置その2】



【小学生も交えた緊急放送の訓練】



【神岡支所長さんへの引き継ぎ】

「攻め」の防災 ～被災地交流～

令和5年7月、神岡小児童が作成の「手作りメッセージ団扇」と、平和中生徒が作成した「交流ポスター」を岩手県大槌町公民館吉里吉里分館へとお届けした。その後、大槌町吉里吉里学園からお礼のポスターをいただいた。往来による直接の関わりはないものの、現在もこのように交流が続いている。



【平和中から吉里吉里学園へ】



【吉里吉里学園から平和中へ】



【神岡小の手作りメッセージ団扇】

令和5年7月15日（土）、大雨による洪水被害の危険が高まったため、本校体育館に避難所が開設された。その後、開設を知って自主的に駆けつける生徒もいて、平素の取組が生きていることを実感した。



【水かさが増す中川原公園周辺】



【避難所開設後の体育館】

小学校・中学校が連携した防災教育

1 手作りメッセージうちわ

神岡地区では、東日本大震災の被災地（岩手県大槌町）と交流を続けている。その一環として、神岡小学校では例年、夏の暑さを少しでも和らげてもらいたいと「手作りうちわ」を作成して届けている。実際に人の往来はないものの、現在もこのように、吉里吉里地区の皆さんとの交流は続いている。



【児童作成の団扇】



【神岡小から平和中へ手作りメッセージ団扇を手渡す】



【大槌町立吉里吉里学園小学部からのお礼のメッセージ】

2 平和中学校 避難所開設訓練への参加

毎年本校の5年生が参加し、地域の防災について考える貴重な機会となっている。



【避難者が快適に過ごせるようお手伝い】



【避難者役としてお手伝い】



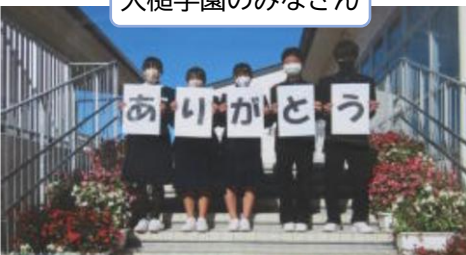
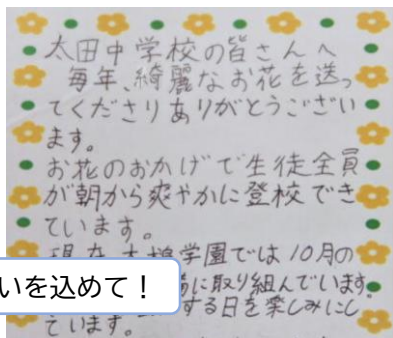
大槌学園へプランター100個を贈る
地域の方々の協力で活動が継続できている



大槌学園のみなさん



メッセージに思いを込めて！



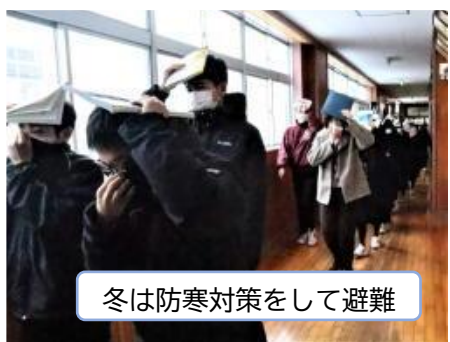
地域・世代を超えて 大槌学園 交流13年目

防災学習 大仙市立太田中学校

知ること・考えること シェイクアウト訓練



身をを守る行動



冬は防寒対策をして避難



大仙市ハザードマップ確認



国土交通省の防災カードゲーム
「つぎはなにがおこるかな」

道徳の時間
災害への備え・大切なこと
【東日本大震災の年に
生まれた1年生】





大仙市教育委員会
Daisen City Board of Education